



るるてる



2025 年
7 月
No.931

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631
■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円（郵税を含む）
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「主よ、私たちに必要なものをお与えください」

日本福音ルーテル箱崎教会・聖ペテロ教会牧師 崔大凡

「行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。財布も袋も履物も持つて行くな。途中でだれにも挨拶をするな。どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。」（ルカによる福音書10：3～6）

福音書は記録しています。著者ごとに、部分的な相違点はあるながらも、主イエスが御自分の働きの人

を派遣するときには、一貫して、余分な物は何も持つて行かないようにと命じられたことを。それは、旅先で必要な物は与えられ

る。物と状況に頼らず、人にも頼らず、ただすべてを与え、すべてを成し遂げられる神に従うように。主イエスが与えられた力と権能こそが使命を果たす…。

という意味が込められているのでしょう。

皆さん、どうでしょうか。強い信仰と従順が求められる言葉です。さすがに、これを文字通りに私たちの生活に適用するには無理

がありそうです。それ以前に、私たちは当時の弟子でも、選ばれた七十二人でもありません。これは当時の彼らへの命令なのです…。

後のルカによる福音書22章35節には次のように書かれています。「それから、イエスは使徒たちに言われた、『財布も袋も履物も持たせずにあなたがたを遣わしたとき、何か不足したものがあったか。』彼らが、『いいえ、何もありませんでした』と言うと、イエスは言われた、『しかし今は、財布のある者は、それを持

つて行きなさい。袋も同じようにしなさい。剣のない者は、服を売ってそれを買いなさい。』この場面の使徒たちは、ルカによる福



「The Mission of the Seventy」
レオナルド・コルチエ作 1576年～1580年
ナショナル・ギャラリー・オブ・アート

音書10章とはまた違う局面を迎えて宣教することになる暗示のようです。

ともかく、「財布も袋も履物も持つて行くな」というイエスの命令は、いつもでも、文字通りに守らなければならぬ命令ではなさそうです。それならお金やその他の持ち物を所有することへの後ろめたさもなくなりそうです。

さあ、本当に良かったでしょう。か。持たない物必要な物を持つるなら、私たちはこの先、上手くやっていけるでしょうか。もし

かして、財布も袋も履物も持たなかったけれど、「不足したものは何もありませんでした」と言えたあのと

きの使徒たちこそ、神によつて満たされた人、自由な人だったのではないのでしょうか。

私たちの働きに、生活に必要な物は色々あります。なければ困る、心配になるのは確かです。それにしてもそれは道具です。備えられているからと言つて、それぞれがそのま

ま命ではない、何かの結末



でもない、道具です。今、御言葉を読んでいる私たちは、この世の物や道具よりも大いなる、聖なる方に招かれています。この世の何かの比較や気づきによつて、**「いいえ、何もありませんでした」**という類いの焦りの代わりに、私たちがよく知っている言葉で祈つてみましょう。「私たちに必要な糧を今日もお与えください」。そしてこう祈ることによつて考えてみましょう。私たちは今どこに向かつて、何を求めて生きているか。生きるに必要な道具そのもののためか。あるいはそれぞれの道具を用いてさらに進みたい道、成し遂げたい何かがあるのか。誰かに伝えたい、与えたい、一緒にあずかりたい何かはあるのか…。

主イエスによつて派遣された七十二人は、「平和」を伝えるために、町や村に出向きました。神の国が近づいていること、神が与える平和は「ある」ことを告げるのが彼らの使命でした。そしてそれを実行する間に「不足したものは何もありませんでした」と後に彼

らは言います。やはり、使命を持つ人には揺れ動かしれない、消えない「平和」があるようです。このような姿は、聖書から、信仰の先人たちの言葉から、共通して見えてきます。

「わたしは、自分の置かれた境遇に満足すること

を習い覚えたのです。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であつても、物が有り余つていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能で

す。」（フィリピの信徒への手紙4：11b、13）

「主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。」（詩編23：1）

主イエスによる命と平和に招かれている皆さんに、今日も必要な糧が与えられますように。しかし糧そのものよりも神による平和が先行しますように。それを受けて、知り、伝える私たちの教会となりま

すように。

命のことば



伊藤早奈
⑥4「いつまで」

「十分の一の捧げ物をすべて倉に運び／わたしの家に食物があるようにせよ。／これによつて、わたしを試してみよと／万軍の主は言われる。／必ず、わたしはあなたがたのために／天の窓を開き／祝福を限りなく注ぐであらう。」（マラキ書3：10）

「いつまでですか？」
いつからでしょうか。私は祈るとき神様にこのように問いかけていました。「私が生きられるのはいつまでですか？ 教えて下さい」

「いつまで」を生きられるのではなくて「今」を生きているのはいかがでしょうか。あなたは「今」命を与えられております。「いつまで」ではなく「今」を、大切にあなたに神様は命を与えて下さいます。



リレーコラム

「全国の教会・施設から」②6



■日本福音ルーテル蒲田教会

市原悠史
(日本福音ルーテル蒲田教会・横須賀教会牧師)

日本福音ルーテル蒲田教会の歴史は戦後間もない時から始まります。記録によると1949年の常議員会議事録に「蒲田に伝道所を開設する件」という見出しがあるそうです。そして、その決定に至るまでには地域からの強い求めがありました。

教会がある地域・六郷は当時空襲によって焼け野原になっており、街の再建の途中だったそうです。ですが荒れていたのは土地だけではなく、厳しい状況を生きる人の心も同様だったと、地域における非行や犯罪が問題となっていたようです。治安の悪化を防ぐため、六郷の地域婦人会はルーテル教会に呼びかけ「教会と幼稚園を作ってほしい」と相談しました。そこで常議員会の決定を受けてスタイワルト宣教師が派遣され、呼びかけた婦人会のメンバーが家庭を開放してくださり、三つの家庭で集会を始め

ました。その後1950年に土地を購入し、翌年に幼稚園の園舎が完成、その園舎にあるホールで主日礼拝が行われるようになりました。

歴代牧師の伊藤文雄先生は、教会の50年誌に「城南地区にはルーテル教会は多い。…東京学芸大学前に都南教会が、荏原そして雪谷にもあった。ほかに田園調布にはアメリカ系のオーガスタナ・ミッシェン、大岡山には戦前からフィンランド系の福音ルーテル教会、そして大森にはアメリカ系のスオミ・ミッシェンの教会がそれぞれあり、いずれも幼稚園を擁していた」と書かれています。前



日本福音ルーテル蒲田教会会堂

述の地域からの求めがなければ、わざわざ大田区にもう一つ教会を増やすというアイデアはなかったかもしれません。

現在の園舎は1994年に、礼拝堂・牧師館は1999年に建て替えられました。また礼拝堂には2013年にパイプオルガンが入り、現在の蒲田教会の大きな特徴の一つとなっています。

教会近辺は東京の下町で、今も昔ながらの街並みや雰囲気を感じることができ、そのような地域性の中にあつて、教会にも活気があります。羽田からも品川からも近い立地ですの

で、どうぞお出かけください。あなたにお会いできることを楽しみにしています。

古城喜美子
(シオン園保育所園長)

本園は、熊本県の北西部に位置し西は有明海、北は福岡県大牟田市との県境にある荒尾市にあり、北隣の大牟田市とともに三井三池炭鉱の街として発展してきた歴史がある世界文化遺産の万田坑があります。また、九州最大級の遊園地グリーンランドがあり、その近くにシオン園保育所があります。

社会福祉法人慈愛園が運営する11施設の一つとして第2次世界大戦後の混乱期、貧富の差が大きく弱い立場の人々が影響を受けていた状況を知り「なんとかしなければ」という熱い思いで行動に移された慈愛園の創立者モード・パウラス先生によつて1950年5月に定員33名で開園しました。

現在は、創立76年目を迎え定員140名で歩んでいます。四季折々の自然に囲まれた環境の中で子どもたちは、広い園庭や山で思

いつきり駆け回って遊び、子どもたちが主体的に遊びや生活できるような保育に取り組んでいます。園庭には樹齢56年の桜の木があり、桜の花の時期には私たちを癒やしてくれて、子どもたちも木登りやセミ捕りを楽しみます。子どもたちは草花や生き物が大好きで、季節ごとにさまざまな自然物に触れながら遊んでいます。時代の流れとともに保育の方法も変化してきていますが、昔も今も変わらないものが、柔らかい赤ちゃんの感触であり、子どもたちの屈託のない笑顔であります。保育の理念である「謙遜・献身・愛」に基づき子どもたち一人一人を認め、受け入れ、大切にし、保護者から信頼され、地域に愛される保育園でありたいと願いつつ神様の恵みの中で歩み続けたいと思います。



シオン園保育所外観

改 宣 教 室

小泉基
(日本福音ルーテル札幌教会牧師・宣教室長)

山田麻衣
(日本福音ルーテル室園教会信徒)

小泉 山田麻衣さんは、このたびJICA(国際協力機構)の隊員としてブラジルに行くことになったと伺いました。ブラジルではどのような働きをなさるのですか？

山田 はい、日系社会海外協力隊の隊員として活動します。ブラジルには世界最大の日系社会があり、日本と日系社会がよりよいパートナーシップを築くことが望まれています。私は、ブラジルの北東部にあるサルバドルという都市にある、サルバドル日伯文化協会に配属となり、主に青少年に向けて日本文化を伝え、協会の活動を手伝いながら、より活動が盛り上がるよう支援する予定です。

小泉 なぜJICA海外協力の働きを志されたのですか？

山田 2013年にブラジルのルーテル教会での

宣教ボランティアに参加して、ブラジルの文化に魅了され、同時に日系社会の存在感に大変驚きました。お世話になった日系社会にいつか恩返しがしたいと考えていました。人生において新たな挑戦をしたいと思ったタイミングで、JICAの青年海外協力隊に挑戦しようと思

い、無事に合格することができました。

小泉 この記事が掲載される頃には、もうブラジルの空の下におられることと思います。渡航にあつたの期待を教えてください。

山田 再びブラジルに行くことは長年願っていました。前回の渡航から10年以上たっているのでも私を支えてくれ、後押ししてくれていると感じています。今回の渡航の前に教会の友人にも会い、激励の言葉をもらいました。長く続く教会の仲間とのつながりに改めて感謝しています。

働いていました。この経験を活かし、ブラジルでも子どもたちや家庭における支援に少しでも関わってみたいと考えています。

小泉 ありがとうございました。最後に、山田さんと教会との出会い、そして大切にしている聖句があつたら、教えてくださいませんか？

山田 高3で受洗をした後、カンボジアワークキャンプから始まり、多くの海外での経験を教会に後押ししてもらいました。すべてが今回の挑戦につながっていると思います。いつも思い出す聖句はコヘレトの言葉3章です。どの瞬間も神様の計画のうちであるということが、いつも私を支えてくれ、後押ししてくれていると感じています。今回の渡航の前に教会の友人にも会い、激励の言葉をもらいました。長く続く教会の仲間とのつながりに改めて感謝しています。



山田麻衣氏近影

全国教師会総会報告

安井宣生

（日本福音ルーテル健康教会申
佐教会・長崎教会・阿久根教会
牧師・前日本福音ルーテル教会
教師会書記）

教会総会の翌日、5月7日に宣教百年記念東京会堂にて全国教師会総会を開催しました。現任教師の65名中の55名と長期宣教師1名の出席がありました。

教会総会へ推挙する教師試験委員候補者の選出を事前に郵便で実施する必要があったために、前月の時点で総会の取り扱い事項に着手してまいりました。また総会当日の選

挙は、投票に各自のスマートフォンなどを使用する形をとりました。これらは今後の標準となっていくことと思います。

はじめに松本会長は、40年前のヴァイツェッカー元ドイツ大統領の「荒野の40年」に心を動かされて「みことば」の職務に立つべく導かれた経緯、そしてモーセの生涯が40年ごとに新たな展開へ導かれていったことに触れ、今の私たちが荒野でさまよう状況であるからこそ、それぞれの召命を想起し、神と人の歴史・関わりを過去に留めず、今の決断にしてゆく群れでありたいと述べて励ましました。

協議としては、①退修会の隔年開催、②教職育児介護休業規定の制定に伴う「教職者相互扶助会」からの支給とその根拠となる法改正、加えて、③神学教育の今後について取り扱いました。

教師数の減少や担当業務の増加などにより、教師同士の励まし合いや学び合いの機会はますます重要となっています。そこで3年〜4年ごとに開催としていた退修会を隔年開催とする提案が承認されました。総会とあわせて毎年、顔を合わせ、機会を持つ道が開かれました。

教会総会において決議された教職育児介護休

業規定によると、雇用保険では休業時の給与が全額給付とならない状況も発生する場合があります。その不足分を教師相互の支え合いの制度で補えるようにしました。

神学教育とりわけ教職者養成は、教会が主体的に担っていくことが確認され、宣教を担う存在を生み出していくための意見交換が活発になりました。

今期の役員は松本義宣会長、西川晶子書記、多田哲会計、また坂本千歳教職者相互扶助会会計が担います。

社会福祉法人るうてるホーム 60周年記念式典報告

高田真希

（社会福祉法人るうてるホーム職員）

社会福祉法人るうてるホームは大阪府北東部の四條畷市にあります。日本福音ルーテル教会婦人会の祈りと運動によって設立された法人ですが、今年で創立60周年を迎えました。

今期の役員は松本義宣会長、西川晶子書記、多田哲会計、また坂本千歳教職者相互扶助会会計が担います。

施設であると共に、障がいのある方へのサービスも提供しています。

るうてるホームでは60周年を迎えるにあたり、プロジェクトを立ち上げ、いくつかの記念事業を企画しました。テーマは「るうてるケアの継承〜千年後の世界に向けて」。

「千年」というと漠然とした印象を受けられるかもしれませんが、私が私たちがはそこに「未来」「永遠」「いつの時代も」「これからも」という意味を託し、永い時を経た遠い未来も、私たちの理念を体現したるうてるケア“を変えらぬ真理

として、自分たちの手で世界へ広げていくという願いを含めました。

5月27日には、大柴譲治理事長・チャプレンの司式で創立記念礼拝が行われました。地域や法人の関係者、入居のご利用者、職員などが集い、これからの未来に向けて思いを新たにしました。

また、同日午後からは、リラフレカリア（祈りのたて琴）の演奏の後に、社会福祉法人光の子会理事長の岩切雄太牧師、日本福音ルーテル天王寺教会の竹田大地牧師に、それぞれのご経験や実践についてご講演いただきました。その後、大柴譲治理事長・チャプレンの加わり、上記のテーマについてご鼎談いただきました。

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.

（日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師・世界宣教師主事）

LWF、新教皇の誕生を祝して

ローマカトリック教会の新しい教皇が決まり、日本でも大きなニュースになりました。「LWFは聖霊に満ちた喜びと感謝を込めて、あなたがローマの司教に選ばれたことを歓迎いたします。」アンネ・ブルクハルトLWF事務局

長は5月8日、世界の

ルuter教会を代表し、アメリカ合衆国から初めて選ばれた教皇に歓迎メッセージを伝えました。「ローマカトリック教会とルーテル教会が、助けを必要とする人たちに共に仕えてキリストを証し、世界の人々を信仰へ導けるよう、一致に向けて成長の歩みを続けられることを私たちは祈っています。」

すると新教皇がバルコニーに姿をみせて、対話による平和の架け橋の必要をイタリア語とスペイン語で呼びかけました。

新教皇は枢機卿たちに感謝の言葉を述べると、前任者のフランシスコ教皇が亡くなる前日のイースター朝に、ローマと世界に向けて祝福を送ったことに触れてメッセージをしました。「私も同じ祝福を送らせてください」「神様は皆さんを愛しています。恵が勝利することはありません。恐れず、私たちが神とともに手を携え

夕方6時過ぎにシステイーナ礼拝堂の煙突から白い煙が上がり、聖ペテロ大聖堂に詰めかけた大群衆から一斉に歓声が上がりました。しばらく

リストを先頭にして前進しましょう。私たちはキリストの弟子です。世界がキリストの光を求めています。対話と出会いを通じて架け橋を築き、一つの民となつて、平和のために皆さんの力を貸してください。」

教皇レオ14世となったプレヴォスト氏はシカゴ生まれの69歳、米国籍とペルー国籍をもち、ペルーで20年以上の宣教師経験、南米の司教としての働きもあります。1985年にペルーのアウグスティヌス宣教団に加わり

2001年から2013年まで総長を務めました。翌年にフランシスコ教皇より北ペルー教区の司教に任命されました。

LWF総会議長ステュピカ氏と事務局長ブルクハルト氏は書簡でレオ4世に伝えたことは、第「バチカン公会議後に始まったカトリック教会との対話にLWFが深く関わり、そこから「義認に関する共同宣言」が出来たこと、宗教改革500年の際にはフランシスコ教皇が、ルーテル教会の監督たちと共同司式のもと記念

祈りいたします。」

[https://lutheranworld.org/news/lwf-congratulates-pope-leo-xiv-expresses-hope-building-bridges-peace?ct=t\(EMAIL_CAMPAIGN_NL_EN_COPY_01\)](https://lutheranworld.org/news/lwf-congratulates-pope-leo-xiv-expresses-hope-building-bridges-peace?ct=t(EMAIL_CAMPAIGN_NL_EN_COPY_01))



60周年記念礼拝



講演会の様子

ルーテル世界連盟(LWF) 事務局長・アジア担当主事日本訪問

李明生事務局長
(日本福音ルーテル
むさしの教会牧師)

2025年5月21日、
25日、ルーテル世界連盟
(LWF)の事務局長であ
るアンネ・ブルクハルト牧師
とアジア担当主事である
ロス・ヒータ・シアハーン牧師
が日本にある3つのLWF
加盟教会(日本福音ルー
テル教会・日本ルーテル教
会・近畿福音ルーテル教
会)を牧会訪問するため訪
日されました。

人は3つのルーテル教会を
訪ね、各教会の現状とLW
Fの現況を分かち合う時
を持つていただきました。
21日に、ブルクハルト事
務局長はジュネーブから、
シアハーンアジア担当主事
は台湾からそれぞれ東京
に到着。翌日22日の午前
中は東京市ヶ谷の日本福
音ルーテル教会事務局に
て執行部と、午後には東
京・飯田橋の日本ルーテル
教団事務局にて執行部と
ミーティングを持ち、夜に
は日本福音ルーテル東京
教会にてブルクハルト事
務局長によるエキュメニズ

元々の計画では、事務局
長は5月13日～16日にメ
キシコ・グアダハラで行わ
れたアメリカ教会指導者
会議に出席後、台湾・新竹
市の中華信義神学院で5
月17日～21日開催された
LWF世界宣教協議会
(JELC)からは宮本新牧
師が出席にアジア担当主
事と出席され、その後2
人で訪日の予定でした。し
かし、メキシコでの会議の
後、新たに選出されたロー
マ教皇の就任礼拝(5月18
日)に出席するため、台湾
での協議会への出席を取り
やめていったんヨーロッパ
に戻り、東京で再びアジア
担当主事と合流すること
となりました。このような
緊急スケジュールにもか
かわらず、大変精力的にお二



エキュメニズム講演会で講演するアンネ氏



JELC執行部との記念撮影。右から3番目がアンネ氏

ム講演会が行われました。
23日午後には大阪に移動
24日に大阪・弁天町の近畿
福音ルーテル教会事務局
にて執行部とミーティ
ングを行った後、和歌山に移
動。25日の日曜は近畿福
音ルーテル教会・和歌山
ルーテル教会の礼拝でブル
クハルト事務局長が説教
を担当され、ジュネーブに
戻られました。

箱崎教会で、これまで
月に1回、当教会前任牧
師の和田憲明牧師を中心
に、「黙想と祈りの集い」テ
ゼ共同の歌を用いて」と
題して、テゼの歌を用い
た祈りの会を開催してき
ました。最近、テゼの歌集
第2集が25年ぶりに発売
され、良い機会なので、その
歌集の中から参考になる
ような録音会をしようとい
う提案がなされました。

そんな時に、第1回シグ
ニス映画フェスティバルが
開催される、というお知
らせをいただき、せっくな
ので、録音会のメイキング
を応募したいと考え、メン
バーの協力をいただきなが
ら、動画を作成して応募し
ました。



左：高山修氏、右：岸本景子
映画監督(審査員)

シグニス(SIGNIS) カト
リックメディア協議会と
は、映画・テレビ・ラジオ・イ
ンターネットなどの様々な
メディアを通して、福音を
述べ伝えることを目的と
した国際的なボランティア
団体です。その日本組織で
あるシグニスジャパンが、昨
年初めて開催したのがシ
グニス映画フェスティバル
になります。

東京・四谷のカトリック
イグナチオ教会が隣接する
岐部ホールで、2025年
5月3日に第1回シグニス
映画フェスティバルの授賞
式があり、日程の都合から、
和田牧師の代理として私
が参加しました。授賞式に
は、カトリックの担当司教
の方や、審査員の岸本景子
映画監督も参加され、「人
が集まる場所に神様もい
ることを感じる」とのでき
る動画といった選評をい
ただくことができました。

動画フェスティバルには、
カトリックの方だけでなく、
多くのプロテスタント
の方も参加されており、エ
キュメニカルな集いとなり
ました。懇親会では、所属
に関係なく、配信や動画作
成の工夫、次回コンテスト
の構想など、様々なディス
カッションをすることがで
き、恵み豊かな時間でした。
応募した動画作品は、「新
しい歌」というタイトルで、
箱崎教会のYouTubeチャ
ネルにありますので、良け
ればぜひご覧ください。
最後に当教会前任牧師
の和田憲明牧師からメッ
セージをいただいております。
ので、紹介させていただきます。

「2025年度 ルーテル聖書日課読者の集い」のご案内

今年の『ルーテル聖書日
課読者の集い』は、大阪で
開催されます。

ルーテル聖書日課の読
者ではない方も参加いた
だけますので、皆様のご参
加をお待ちしております。

【日程】10月20日(月)14時
～21日(火)14時
*部分参加・日帰り参加
も可能です*

【会場】日本福音ルーテル
大阪教会／ホテル・ザ・
ルーテル(最寄り駅：谷町
四丁目)

【主題】「ガラテヤ人への手
紙に学ぶ・キリスト者日常
の自由と使命」

【講師】正木牧人先生(神
戸ルーテル神学校教授・
アジア神学大学院教授、
正木うらら先生(神戸
ルーテル神学校講師)

【参加費用】1万8千円
(受講料込・泊3食付)

【部分参加】1講義1千円
(全5講義、食事代別途)

【申込締切】9月18日(木)
16時必着

【申込先】

以下を明記の上、先のお
問い合わせにあるメール
または、FAXまでお送り
ください。

①氏名・ふりがな ②所
属教会 ③住所 ④
最寄り駅 ⑤ご連絡先

こちらの二次元
コードより
申し込みメールが
作成できます。



seishonikka@jelc.or.jp
※受付時間 平日8時～
16時

るるるるる法人会連合第15回総会開催のお知らせ

李明生事務局長
(日本福音ルーテル
むさしの教会牧師)

るるるるる法人会連合
第15回総会を東京都三
鷹市のルーテル学院大学
で開催いたします。

日々、教会、社会福祉
法人、学校法人、幼稚園・
保育園の働きを通して宣
教に取り組んでおられる
皆様と課題を共有し、福
音宣教の働きを共に前
進させていくことができ
ますように、共に歩ん
でいくことを確認したいと
考えています。

夏の暑い盛りではござ
いますが、皆様のご参加

「るるるるる法人会連合第15回総会」

【日時】2025年8月26日(火)13時～27日(水)12時30分

【会場】ルーテル学院大学

181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20

【主題】「ルーテルとして何を大切に、何をしていくのか」

【主題講演講師】石居基夫先生(ルーテル学院大学学長)

【申込先】申し込みは、二次元コードからお願いいたします。

締切は7月22日(火)必着



▲申込先二次元コード

【お問い合わせ】

るるるるる法人会連合事務局(日本福音ルーテル教会事務局)

電話 03-3260-8631

FAX 03-3260-8641

もしくは右記サイトから、件名に

「るるるるる法人会連合第15回総会に

ついて」としてお問い合わせください。



▲お問い合わせ

https://jelc.or.jp/contact/

